

交通環境の評価：運転中に危険を感じる理由の順位付け回答で、1位に選択された理由を集計したものが図7である。これより郊外居住者が道路設備や交通施設の未整備について、市街地居住者が周囲の交通事情に強く危険を感じていることがわかる。

身体能力の低下と交通用具：各交通用具使用中に不安を感じる理由の順位付け回答を集計したのが図8である。これより他の交通用具と比較して車は高齢者にとって年齢に関わりなく体力的負担の小さい交通用具であるといえる。

運転継続に関する意識：車の運転を止めたときの影響については、図9に示すように回答者の約4割が生活にかなり大きな影響が出ると答えている。運転を止めて困る用件については日常生活の基本用件の順位が高い(図10)。運転継続については、回答者の3割弱が運転を止められないとし、16%が危険を感じているが運転を続けたいと回答している(図11)。また、高齢化の進行と共に継続希望年齢は高くなっている(図12)。

代替交通手段：バスが重要な代替手段として挙げられているが、一方バス経営は困難化しており問題になるところである。また、自転車が多く選択されているが、運動能力の衰えた高齢者にとって危険な選択傾向といえる(図13)。

4. 結論および今後の課題

今回の調査により高齢ドライバーの交通行動、運転継続について基礎的なデータを得ることができた。これらの成果をさらに高齢者が生活を自己完結できる都市の実現に寄与しうる詳細な調査、分析を展開して行くことが今後の課題である。

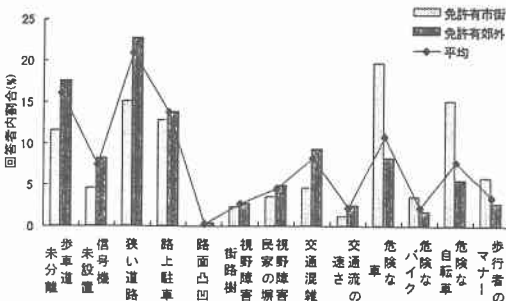


図-7 自動車の運転中に危険を感じる理由

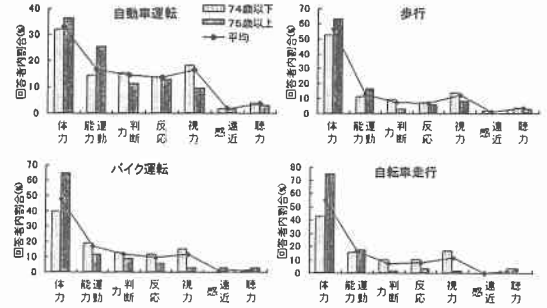


図-8 身体能力の低下と交通用具の関係

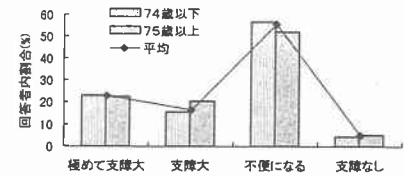


図-9 自動車の運転断念が生活に及ぼす影響

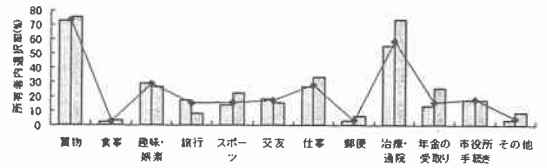


図-10 自動車の運転を止めて困る用事

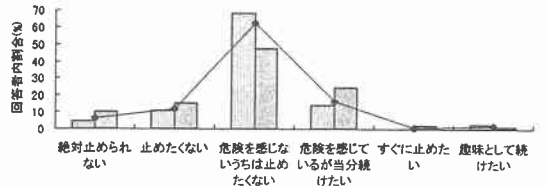


図-11 今後の自動車運転について

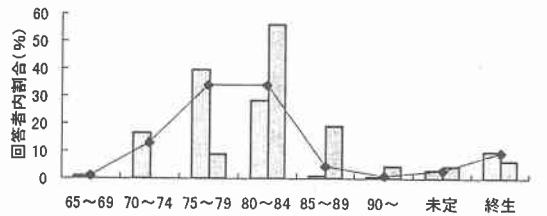


図-12 自動車の運転予定

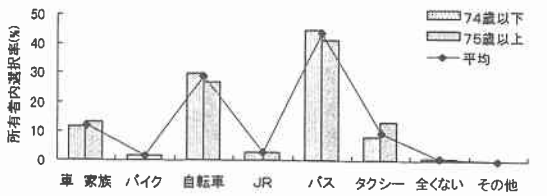


図-13 自動車の運転を止めたときの代替手段